



信念が、世の中を変えていく。「One's Way」でいこう。

iSM × 遊びを学びに

撮影 / 戎谷康宏

## 若者の主体性に スイッチを入れる創意工夫

学問は、受動的に捉えれば苦行になる。しかし、能動的に取り組めれば楽しい行いになる。何を学ぶかにもよるが、学習環境が与える影響も小さくない。単に机が並んだ教室では湧かない意欲や得られない刺激があることは確かだ、それはアクティブラーニングという学習スタイルに対する教育界の関心の高さが示している。

帝京大学は近年、八王子キャンパスの新校舎棟 SORATIO SQUARE (ソラティオスクエア) に入る学習支援施設を拡充してきた。そして、学生の主体性ある学びをサポートするため、2018年4月に完成したのが『ACT3 (Active Learning & Creative Toolbox)』である。速目からでもガラスの壁越しにデザインされた空間が目に入り、思わず訪れてみたくなる。そして、足を踏み入れると、世界中から集められたこだわりのインテリアにも目を奪われた。

室内は7つのエリアで構成されている。本の表紙が壁のデザインとなり個性的な空間を演出する『ACT WALL』エリア。ペンで書き込み、切り取って持ち帰ることも可能なロールペーパーが置かれる『PAPER SEAT』エリア。講義以外でも自由にデスクトップパソコンが使用可能な『PCステーション3』。学生同士のディスカッションやプレゼンの準備にも重宝する『グループ学習室』など、そこには「調べる・書く・発表する・考える・創造する」を支援する創意工夫が散りばめられている。

従来の概念を覆す学習支援施設であることは、コンセプトにも表れている。それは、発想を刺激する仕掛けやアイデアを形にするツールが満載の「学びと創造の道具箱」。狙いは、学生のアクティブラーニングを活性化させることにある。八王子キャンパスでは図書館や語学学習支援施設も充実させてきたが、活発に対話・議論し、講義以外でも自由に利用できる学びの場が必要と考え、設置に至ったという。

実際、学生のニーズは高く、利用状況を見ると多い日は2000人を超え、席を取るのに困るほど盛況とのこと。利用する学生の代表として、ACT3で

他の学生の学びをサポートする『ピアサポーター』に感想を聞いてみた。

「学ぶ姿がカッコイイと感じる。そのような学習空間はあまりないと思います。自然と学習意欲が湧きますし、毎日足を運んでしまいます」

「関心がなかった分野の本も、手に取って読みたいくなる。学びの場に必要な演出だと思います」

「ここで出会った友だちから得る発見や刺激も多いです。講義で取り組むことだけが学びではないと気づきました」

こうした学習支援施設の拡充には、アクティブラーニングの本質に迫るISM (イズム) が流れている。それは、「遊びを学びに変えること」。自由な発想で問いを形にできる環境が、これから社会へと羽ばたいていく若者の主体性にスイッチを入れる。



みんなで集まり、考えることが楽しくなる「ACT WALL」エリア。キューブ状の壁に並ぶ本の表紙もデザインの一部として空間を演出。グループワークなど多目的に利用されている。



話した内容やアイデアをその場で書き込める、ロールペーパーが備え付けられた『PAPER SEAT』エリア。スマホで撮ったり、切り取って持ち帰れる、機能を追求した小空間だ。



学習を支援する『ピアサポーター』は現在29人。個々の得意分野などを紹介するプロフィールボードをACT3内の各所に掲示するなど、質問や相談しやすい工夫がなされている。

帝京大学

本部広報課 TEL.03-3964-4162  
〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1  
http://www.teikyo-u.ac.jp/